

あいち農産物生産流通レポート

2024年11月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 令和6年度第63回農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました	(東京事務所) 1
・ イチゴに関する消費者の嗜好性について	(農業総合試験場) 3
◎ 地域トピックス	
・ JA西三河の食農教育活動	(西三河農林水産事務所) 5
・ 豊田市敷島自治区における農村型地域運営組織モデル形成支援事業の取組について	(豊田加茂農林水産事務所) 6
◎ 東日本情報	
・ 加工・業務用野菜の国産強化を主題としたセミナーが開催されました	(東京事務所) 7
◎ フラワーページ	
・ 「第30回大田花きバラ会議」が開催されました	(東京事務所) 9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

令和6年度第63回農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024年11月1（金）、2日（土）に池袋にあるサンシャインシティで第63回農林水産祭「実りのフェスティバル」（主催：農林水産省、公益財団法人日本農林漁業振興会）が開催されました。

1 「実りのフェスティバル」とは

農林水産業と食に対する理解の増進と農林水産物の消費拡大などを目的に開催されており、道県や農林水産関係団体等の出展により、農林水産物及び加工品の販売や試飲・試食が行われました。他にも、農林水産祭における天皇杯等の受賞者のパネル展示や、都道府県技術・経営普及展での展示、政府特別展示（農林水産省）が行われました。ポニーの体験乗馬や、くまモンなどのゆるキャラも登場し、大人から子供まで多くの来場者で賑わい、盛況に開催されました。

2 愛知県の農産物をPR

愛知県はJAあいち経済連と共同で2日間に渡り愛知県産農産物の販売、試食とともにPRを行いました。

販売品目は、首都圏に出荷しているミニトマト、キャベツ、ブロッコリー、フキ、次郎柿、ギンナン、大葉、シクラメン、うずら卵燻製でした。

試食としてミニトマト、次郎柿等を提供し、来場者からは「愛知は生産量日本一の農畜産物が数多くあることを知らなかった。試食した物も美味しい」と好評でした。また、ギンナンは、お玉一すくい200円と手頃な価格で少量販売にしたことで、普段食べる機会の少ない人にも購入していただくことができました。



ギンナンのすくいどり



人気の次郎柿



ミニトマト各種



特産のフキ・大葉



高値となった
ブロッコリー・キャベツ



色とりどりのシクラメン

3 うずらや新品種を紹介

都道府県技術・経営普及展では、「愛知のうずらは日本一 愛知のブランド果実」として、各種うずら卵商品や、愛知県農業総合試験験場とJAあいち経済連と共同で育成した大果・多収・良食味ないちごの新品種「愛経4号」（ブランド名「愛きらり®」）と愛知県農業総合試験験場が育成したカンキツ新品種「夕焼け姫」について紹介しました。



愛知県の展示



いちごの実物展示



各種うずら商品とパネル展示

4 農林水産祭の受賞者のパネル展示

令和6年度（第63回）農林水産祭の天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の受賞者のパネル展示がされました。本県では、園芸部門（スプレーギク）で愛知県豊川市の山田裕也氏が内閣総理大臣賞を受賞されました。



内閣総理大臣賞のパネル展示の様子



内閣総理大臣賞（園芸部門）
愛知県受賞者のパネル展示

イチゴに関する消費者の嗜好性について

農業総合試験場

本県のイチゴは、作付面積 251 ha（全国 6 位）、出荷量 10,000 t（同 4 位）（いずれも令和 4 年産野菜生産出荷統計（農林水産省））で、主要な品目の 1 つです。他県産との競争力を強化するため、本県オリジナル品種の育成やブランド化の取組が重要となっています。

ブランド化のためには、消費者ニーズを踏まえた系統選抜、高品質生産のための栽培指針や他品種と差別化を図るための販売方策の策定等を育成段階から計画的に進める必要があることから、県内消費者のニーズや購買意識を調査しました。

1 調査方法

- (1) 調査対象は、スーパー等の量販店において、農産物の主な購入者と考えられる 30 歳以上の女性で、イチゴの多く出回るシーズン（冬から春）に、生果としてイチゴを 1 回以上購入する県内在住の消費者としました。
- (2) 調査方法は、選択肢の中から回答する形式のアンケートをウェブにて実施し、回答した調査対象に該当する消費者 5,000 名から、年代の 4 区分（30 代、40 代、50 代、60 代以上）が各 125 名、計 500 名となるように無作為抽出し、その結果を解析しました。
- (3) アンケートの主な質問項目は以下のとおりです。

	イチゴに関する主な質問項目
回答者の属性	年代、居住地域等
質問項目	好きな品種・理由、購入場所、購入理由、購入用途、購入基準、購入時に知りたい情報、情報の入手方法等

2 結果

- (1) 好きな品種の上位 3 位は表 1 のとおり、「あまおう」、「章姫」、「とちおとめ」でした。品種の好きな理由について、回答割合の上位 3 位は、いずれの品種も「甘味・酸味のバランス」、「甘みが濃い」、「果実が大きい」であり、これらの評価の高い品種が消費者に好まれる傾向があることがわかりました。

表 1 好きなイチゴ品種の上位 3 位とその理由（上位 3 位）

品種	好きな理由		
	1 位	2 位	3 位
1 位 あまおう	甘みが濃い (25%)	甘み・酸味のバランス (22%)	果実が大きい (15%)
2 位 章姫	甘み・酸味のバランス (29%)	甘みが濃い (13%)	果実が大きい (12%)
3 位 とちおとめ	甘み・酸味のバランス (22%)	甘みが濃い (17%)	果実が大きい (14%)

注 1：いずれの設問も複数回答。（）内は各設問の回答全体に占める割合。

注 2：品種に関する項目は、①「章姫」（静岡県）、②「紅ほっぺ」（静岡県）、③「ゆめのか」（愛知県）、④「とちおとめ」（栃木県）、⑤「あまおう」（福岡県）、⑥「ゆうべに」（熊本県）、⑦「さがほのか」（佐賀県）、⑧「いちごさん」（佐賀県）、⑨「かおり野」（三重県）、⑩「やよいひめ」（群馬県）、⑪「その他」、⑫「特になし」の 12 項目。

(2) アンケートの結果、表2のとおり、購入場所は「スーパーマーケット」、情報の入手場所は「店頭」が多い傾向でした。

また、購入基準は、「価格」以外では「傷みが少ない」、「果皮のつやが良い」等、購入時に知りたい情報としては、「甘さ（糖度）」、「品種の特徴」等の回答が上位となりました。

表2 イチゴの生果に関する質問と有意な回答（上位3位）

質問	回答		
	1位	2位	3位
購入場所	スーパーマーケット (94%)	農産物直売所 (22%)	八百屋 (8%)
情報の入手方法	店頭 (71%)	特になし (21%)	テレビ (18%)
購入基準	価格 (76%)	傷みが少ない (61%)	果皮のつやが良い (33%)
購入時に知りたい情報	甘さ（糖度） (80%)	品種の特徴 (44%)	日持ち性 (34%)

注：いずれの設問も複数回答。（）内は各設問の回答全体に占める割合。

3 考察

(1) 好まれる品種の特徴から、新品種の系統選抜等においては、「甘味・酸味のバランスがよいこと」、「甘みが濃いこと」、「果実が大きいこと」に留意する必要があると考えられます。

(2) 知りたい情報として「甘さ（糖度）」や「品種の特徴」、購入の基準に「傷みが少ない」や「果皮のつやが良い」を挙げる人が多いことから、生果の生産・販売にあたっては、糖度等の品種の特徴を情報発信するとともに、鮮度等に一層留意する必要があると考えられました。「価格」については、消費目的（贈答用等）によって、許容される価格は変動することが考えられ、目的に応じた価格設定等を検討する必要があります。

(3) 購入にスーパーマーケットを利用する消費者が大多数で、情報を店頭で入手する人が多いことから、ブランド化に際しては、量販店を対象とする戦略が効果的と考えられました。

*****農業総合試験場からのお知らせ*****

農業総合試験場 公開デー 2024

YouTube LIVE配信 開催!

日時 2024年 **11月11日** (月) 第1部 午前10時から正午まで
第2部 午後2時から4時まで

視聴方法 YouTube 農業総合試験場チャンネル 

 あいち農業イノベーションプロジェクトについて各課題を担当する研究員が内容を紹介します。



J A 西三河の食農教育活動

西三河農林水産事務所

J A 西三河は、地域農家や保護者、地域住民ボランティアと協力し、西尾市内小学校 18 校の 5 年生を対象に「米づくり体験授業」を行っています。年間を通して、田植えやお米の授業（またはかかし作り）、稲刈り、収穫したお米を使った箱寿司や五平餅などの伝統料理づくりを行い、地域農家と交流することで、食べ物が食卓に届くまでの過程や農家の苦勞を知り、「食」と「農」の大切さを考える機会を提供しています。

1 ドローン見学やクイズを交えたお米の授業

7 月から 9 月にかけて行うお米の授業では、草刈りや中干し、農薬散布といった農家の作業や工夫、地産地消について学びます。

J A 西三河職員が、農家が作業している様子を写真や動画で見せ、害虫被害を受けたお米と受けていないお米を実際に児童に手にとってもらうことで、害虫から稲を守るための草刈りや農薬散布の重要性について説明しました。

また、ドローンを展示し、地域農家が飛ばし方や農薬散布する際の注意点について説明し、JA 西三河職員が地域のお米に関するクイズを行いました。実物を見たり考える機会を増やすことで、楽しく学ぶことができました。

質問コーナーでは、児童から「農薬ってヒトや動植物に害はないの?」「ドローンが飛ぶ高さはどれくらい?」「害虫ってどんな虫がいるの?」「お米の種類によって味は違うの?」など質問が多数あり、お米や地域農業への関心が高まっていました。



お米づくりの作業を説明



ドローンの使い方を説明

2 食農教育活動の効果

授業を受けた児童からは、「お米作りの大変さや工夫を知ることができてよかった。」「地域のを食べて、地産地消に取り組みたい。」と感想がありました。地域農家は、「体験学習を通して、お米を大切に食べるようになってほしい。」と期待を込めていました。

活動の様子は、J A 西三河の広報誌やインスタグラム、J A 西三河農業まつりでのパネル展示などで広く情報発信をし、市内外への波及を図っていきます。

豊田市敷島自治区における農村型地域運営組織 モデル形成支援事業の取組について

豊田加茂農林水産事務所

1 農村型地域運営組織モデル形成支援事業の取組経緯

農村型地域運営組織モデル形成支援事業（国費事業）は、農村 RMO^{※1}による農用地保全、地域資源活用、生活支援に係る実証に関する取組を支援するものです。

豊田市の中山間地域に位置する敷島自治区^{※2}では、人口減少・高齢化により集落単位での農用地保全活動や生活支援等の困りごとの解決が困難になってきました。

そこで、2023年度より3か年にわたり当事業を活用し、自治区を中心とする運営協議会によって、地域に必要なシステムや事業を実証することにより、地域の課題解決に取り組んでいます。

※1 農村 RMO（Region Management Organization）とは、複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う農村型地域運営組織のことです。

※2 豊田市旭町敷島地区（旭町人口2,372人（令和5年6月1日現在））

2 敷島自治区における取組内容について

敷島自治区では地域の将来ビジョンとして「しきしま・ときめきプラン2020」を作成しました。それを実現するため、以下の3つの取組について実証を行っています。

① 農用地保全について

将来にわたって営農が継続できるよう「自給家族」という取組を行っています。

自給家族とは、「家族の様に生産者と同等の負担を消費者にしてもらう」という考えに共感した140家族（消費者）と3～10年の長期栽培契約を結び、特別栽培米（ミネアサヒ）の生産に必要な費用30,000円/俵を、事前に消費者に負担してもらう取組です。



特別栽培米

② 地域資源活用について

（一社）モビリティ・ビレッジと連携し、高齢者が生産した野菜の都市部スーパーへの配送実証に取り組んでいます。

③ 生活支援について

地域独自の支え合いの仕組みづくりとして、有償のボランティアマッチングサービス「支え合いシステム」の運用実証を行って、草刈りなどの要望に対応しています。

3 取組に対する受賞状況

住みやすい地域社会のための優れた取組を表彰する「あしたのまち・くらしづくり活動賞」の令和6年度内閣官房長官賞に、住民どうし支え合い、都市部と繋がる「関係自治」という考え方で、持続可能な地域づくりに取り組む「敷島自治区」が選ばれました。

加工・業務用野菜の国産強化を主題としたセミナーが開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024年10月10日（木）に東京ビックサイトにおいて「加工・業務用野菜の情報交換会セミナー」（主催：野菜流通カット協議会）が開催されました。当セミナーでは加工・業務用野菜の国産強化を主題として様々な話題が提供されましたので、その一部を紹介します。

1 小売業の変化に応じた業務用野菜の生産振興と商品開発

（全国農業協同組合連合会 チーフオフィサー 戸井和久氏）

- ・スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の小売業では、惣菜や冷凍食品の売り場が拡大している。その要因としては、昔は調理に手間のかからない「素材」が求められていたが、共働き世帯の増加によって家庭内での調理時間が減少するなど生活者のライフスタイルが変化し、「簡便」、「即食」（時間をかけずに食べる）のニーズが高まっているためである。
- ・野菜全体の60%は業務用であり、そのうち30%は輸入品となっている。新型コロナやウクライナ情勢等で海外からの食材供給が不安定となっているため、輸入野菜を国産に切り替えることが重要である。
- ・全農では、バリューチェーン（生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階の付加価値を繋ぐことにより食を基軸とする付加価値の連鎖を作ること）に合わせた野菜の生産振興を図っている。例えば、ブロッコリーでは、バリューチェーンに合わせた素材として、加工・業務用に花蕾の大きな品種を選定して生産振興を図っている。令和5年度には、11県17JAで作付けしてリレー供給を行った（出荷期間：11月～3月、出荷量381トン）。
- ・全農では、生活者のライフスタイルの変化に対応するため、バリューチェーンで付加価値を高めるための取組として、生産から販売までのプロセスごとにチームで商品開発に取り組んでいる（図1）。

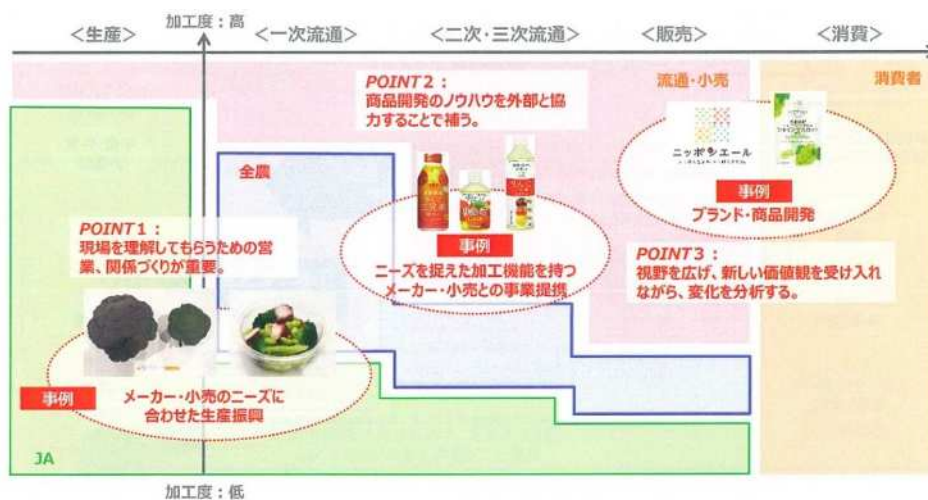


図1 バリューチェーンで付加価値を高めるための取組（出典：セミナー資料）

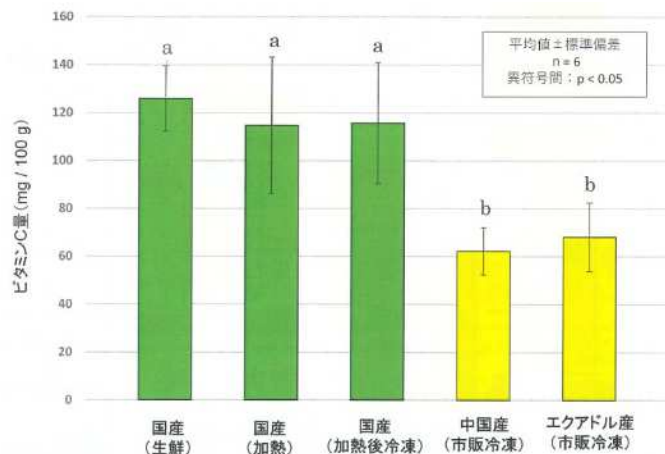
- ・GAP 認証された商品はまだ売れる商品ではないかもしれないが、販売側においては信頼の証として、選ばれる条件になるなど、今後は販売のカギになる可能性が高まると思われる。

2 加工・業務用野菜の生産・供給拡大にむけて

(石川県立大学 名誉教授 小林茂典氏)

- ・食の外部化の進行、簡便化志向が強まり、カット野菜・サラダ等の即食性食品、冷凍野菜、冷凍調理食品、キット食材等の時短食材の需要が増している。これらの商品の顧客価値を高め、なおかつ輸入野菜との価格競争に陥らないためには、利便性を活かしつつ健康の維持・増進機能を高める必要がある。そのためには、栄養成分の低減が少ない加工・業務用野菜の生産・供給拡大が重要である。
- ・「健康日本 21」(厚生労働省)では成人1人1日当たりの野菜摂取目標量を350g以上としているが、これはカリウム、食物繊維、抗酸化ビタミン等が適量摂取できる量として算出したものである。従って、カット野菜、冷凍野菜等の製造過程(洗浄、殺菌、ブランチング[※]、冷凍等)においては、栄養成分の変化・流出等に留意する必要がある。
[※]野菜を冷凍する前に、熱湯に漬けたり、蒸気をあてたりして必要最低限の加熱処理を行うこと。
- ・例えば、ビタミンC含有量は、ほうれんそう、かぼちゃ、キャベツ、にんじんは生よりも冷凍やカットでは少なく、ブロッコリーは国産よりも外国産が少ない(図2)。外国産が少ない要因としては、加熱処理が国産はスチームであるのに対して、外国産はボイルであるためと考えられる。これら事例のように、野菜の加工方法によって栄養分量は変わるため、栄養成分の低減を少なくするための工夫・改善が必要である。

(mg/可食部100g)		
ブロッコリー	生	140
	ゆで	55
ほうれんそう	生(通年平均)	35
	生(夏)	20
	生(冬)	60
	ゆで(通年平均)	19
	ゆで(夏)	10
	ゆで(冬)	30
かぼちゃ(西洋)	生	43
	ゆで	32
	冷凍	34
	冷凍	34
キャベツ	生	38
	ゆで	17
	カット (次亜塩素酸洗浄)	28
にんじん	生	6
	ゆで	4
	カット (次亜塩素酸洗浄)	3
	冷凍	4



資料:石川県立大学食品ビジネス学研究室(2024年2月)

注:国産の加熱方法は、過熱水蒸気加熱による。

資料:文部科学省「日本食品標準成分表」(八訂増補)2023年より一部抜粋

図2 野菜(左)及びブロッコリー(右)のビタミンC含有量の例(出典:セミナー資料)

セミナーでは上記の他に、農研機構の佐野氏から加工・業務用野菜の安定供給のための生育・収量予測ツールについて、(有)エーアンドエスの大平氏から加工・業務用野菜の生産現場におけるICT活用による持続可能な農業生産についてそれぞれ話題提供が行われました。その後、講演者4名と主催者である野菜流通カット協議会の木村会長によるパネルディスカッションが行なわれました。

パネルディスカッションで出た意見で印象的だったのは、「スーパーやレストランでは原料の価格交渉から入ることが多いが、商品づくりまで踏まえて交渉を行わないと、安定した供給産地の育成は困難である。」という趣旨の全農の戸井氏の発言でした。加工・業務用への対応策としては供給体制の整備や加工技術の改善・開発の議論が目立ちますが、安定した供給産地育成のためには、生産者、卸売業者、実需者等が連携して商品開発をし、生産現場の情報を生活者に伝達することも重要であると感じました。

「第 30 回大田花きバラ会議」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024 年 9 月 6 日（金）に、大田市場花き棟にある（株）大田花きのセリ場で「第 30 回大田花きバラ会議」（主催：（株）大田花き）が 6 年振りに開催されました。

当会議は、（株）大田花き、仲卸会社、生産者団体などで構成され、生活者へのより良いバラの提供を目指しています。日本全国からバラの生産者や買参人*が参加し、バラに関する講演や、品種紹介、産地紹介がされましたので、その概要を紹介します。

※ 買参人（ばいさんにん）：市場開設者に認められた卸売市場での購入権利を持つ人のこと。

1 講演「夏のバラ、楽しむ人が急増中！ アプリの花屋だからこそ実現できる『バラのある暮らし』」（講演者 FLOWER(株) 小室 取締役）

FLOWER（株）は、実店舗を持たず、スマホのアプリのみで花を販売する「FLOWER アプリのお花屋さん」を運営しています。消費者を対象とした調査から分かった『かわいい花をたくさん飾りたい』という思いを実現するために、低価格で多様な花を販売しています。

そのために、FLOWER（株）は、数量限定の売り切り方式を採用して花の廃棄を最小限に抑えています。

また、季節やトレンドに合わせた多様な花をアプリ上に提案して、消費者がそれぞれ好みの「かわいい花」を注文できるようにしています。

講演者は、「ユーザーが思い描く『かわいい花をたくさん飾りたい』には季節は関係ありません。『お得でかわいい』を強化すれば販売数を増やすことができます。」とバラ業界の関係者に、売り方を工夫することの大切さを熱心に語りました。

また、FLOWER（株）は市場で仕入れた新鮮な花を消費者に届けているため、花の鮮度が高いことも多くの消費者に支持される一因になっています。

消費者のニーズを実現するため、販売方法を工夫して需要拡大につなげた好事例であり、バラ業界の関係者を大いに勇気づける講演でした。



2 品種紹介

各社の新品種やお薦めの品種が紹介されていました。(展示されたバラはHP 参照 <https://otakaki.co.jp/showroom/240906otarose/>)。

京成バラ園芸(株)は、市場出荷で単価が高い主茎が長い品種を始めとする15種類の新品種を展示していました。

イノチオ精興園(株)は、最近流行のくすみ系カラーでトゲが少なく作りやすいスタンダード系の新品種や、ブライダルにも使いやすいスプレー品種を展示していました。



京成バラ園(株)



イノチオ精興(株)

3 産地紹介

バラの生産者として、栃木県JA全農とちぎ栃木大田会や、群馬県前橋バラ組合、静岡県JAしみずバラ部会などが出席しており、各産地の代表者が産地のPRを行いました。

本県からは、JAひまわりバラ部会が産地のPRを行いました。若い世代の生産者が多く、将来的にも安定供給が見込めることや、新しい集出荷場が7月から稼働し、部会員やJA職員による品質チェック体制が強化されたことなどが伝えられました。



JAひまわりによる産地紹介の様子

国内生産から輸入、販売まで携わるバラ業界の関係者が一堂に会し、それぞれの方々から新しい取組が紹介され、今後のバラ業界の発展に向けた交流の場となっていました。

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋市中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	48	46 (95%)	1,281	1,297	愛知（95%） 岐阜（4%） 静岡（1%）
2024年見通し	75	—	850	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知からはほぼ全量を入荷する。不作だった昨年に比べ、結実は多いが、酷暑の影響により小粒傾向のうえ、実が充実しておらず、しいなが多い。単価は小粒のため、伸び悩む。加工用については、加工業者の廃業により、引きが弱い。 【見通し】 入荷量：前年を大幅に上回る。(56.3%) 価 格：前年を大幅に下回る。(△33.6%)			塩水での選別を徹底し、例年と同等の品質を保つようにして欲しい。 新興産地は出荷量の増加とともに品質も向上してきている。愛知のブランド力を維持するため、高品質生産に努めて欲しい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	4,282	454 (11%)	229	203	熊本（20%） 長野（18%） 茨城（15%）
2024年見通し	4,100	—	225	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
夏場の高温・干ばつの影響等により前年よりも入荷量が少なく高値で推移したものの、10月は生育が回復して入荷量・価格ともに落ち着いてきている。愛知産については11月からの本格出荷を見込むが、高温・干ばつの影響が懸念される。 【見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.3%) 価 格：前年並。(△1.7%)			本年も全国的に高温・干ばつ傾向にあるが、愛知産の品質評価は非常に高いため、引き続き形や色揃えをしっかりと整えるなど、品質維持に努めてほしい。 品目特性上、事前情報の提供が難しいことは理解しているが、量販店への売り込みは、おおよそ1週間前に販売価格を決定するので、翌週の出荷予定の精度を高め、正確な情報を教えてもらいたい。		

名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	34,918	210	201	219	205	北海道 30%
	2020年	36,163	190	200	196	173	愛知 17%
	2021年	37,970	200	202	199	202	茨城 16%
	2022年	38,386	220	228	225	206	長野 9%
	2023年	32,554	230	234	227	223	千葉 4%
	5カ年平均	35,998	210	—	—	—	
	2024年見通し	32,500	217	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	北海道、愛知、茨城を中心に入荷する。夏の高温や、台風10号の影響により生育遅れのある品目があるものの、中下旬にむけて増量する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.2%) 価格：前年をやや下回る。(△5.6%)						
だいこん	2019年	2,025	101	107	109	96	千葉 51%
	2020年	1,945	71	91	71	58	愛知 31%
	2021年	2,124	61	73	59	55	青森 7%
	2022年	2,183	87	102	92	75	神奈川 6%
	2023年	1,853	84	93	85	82	静岡 2%
	5カ年平均	2,026	81	93	83	74	
	2024年見通し	1,900	85	100	80	80	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 愛知、千葉は台風10号の影響等により播種の遅れがあり、上旬は昨年より少なく、中旬以降に出荷ピークとなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.5%) 価格：前年並。(1.2%)						
にんじん	2019年	2,157	107	102	121	102	北海道 46%
	2020年	2,190	128	145	136	115	愛知 24%
	2021年	2,544	104	118	120	94	岐阜 6%
	2022年	2,084	118	134	106	124	千葉 5%
	2023年	1,591	174	200	193	175	オーストラリア 3%
	5カ年平均	2,113	123	135	131	117	
	2024年見通し	1,400	180	200	180	180	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 北海道は10月末でほとんど終了。愛知、岐阜は夏の高温、台風10号の影響により播種の遅れがあり、例年より出荷が少ない見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△12.0%) 価格：高値だった前年をやや上回る。(3.4%)						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	124,404	239	236	245	238	茨城 25%
	2020年	123,828	209	225	213	188	千葉 20%
	2021年	123,074	215	224	212	209	北海道 15%
	2022年	115,515	229	249	228	209	愛知 4%
	2023年	113,872	244	257	235	239	群馬 4%
	5ヵ年平均	120,139	227	—	—	—	
	2024年見通し	116,000	255	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 野菜全体の入荷は、多くの品目で産地が関東や西南暖地に切り替わるが、高温の影響で上中旬は数量が安定しない見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.9%) 価格：前年をやや上回る。(4.5%)						
だいこん	2019年	10,886	97	100	99	91	千葉 65%
	2020年	11,788	59	79	54	44	神奈川 26%
	2021年	11,607	55	67	53	44	茨城 4%
	2022年	10,861	74	85	75	62	青森 3%
	2023年	11,325	71	75	69	68	北海道 1%
	5ヵ年平均	11,293	71	81	70	61	
	2024年見通し	11,500	70	70	70	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 千葉を中心に入荷する。千葉、神奈川は軟腐病等が発生しており、品質低下が懸念されるが、入荷量は潤沢となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.5%) 価格：前年並。(△1.4%)						
にんじん	2019年	7,407	118	101	117	137	千葉 63%
	2020年	7,449	136	138	143	127	北海道 17%
	2021年	7,934	103	67	107	94	埼玉 8%
	2022年	7,408	121	131	124	109	青森 7%
	2023年	6,765	169	176	172	160	中国 3%
	5ヵ年平均	7,393	128	121	132	124	
	2024年見通し	6,700	110	125	105	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 千葉を中心に入荷する。上旬は北海道が終了し関東産は出始めのため少ない。中旬からは関東産が増量する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.0%) 価格：前年を大幅に下回る。(△34.9%)						

名古屋市中央卸売市場

10月15日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	4,289	78	72	84	79	茨城 57%
	2020年	4,680	46	48	48	41	長野 28%
	2021年	4,864	54	55	56	50	愛知 10%
	2022年	4,040	81	89	81	73	三重 2%
	2023年	4,285	72	82	76	63	群馬 2%
	5カ年平均	4,432	65	67	69	61	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4,000	75	80	75	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長野の切り上がりが早く、上旬は入荷が少ない見込み。茨城、愛知は夏の高温により遅れており、下旬から増加見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△6.7%) 価格：前年をやや上回る。(4.2%)							
キヤベツ	2019年	3,418	80	77	89	78	愛知 64%
	2020年	4,044	66	76	69	57	茨城 25%
	2021年	4,278	72	89	72	61	長野 5%
	2022年	4,091	90	107	92	74	静岡 1%
	2023年	3,690	102	134	94	85	群馬 1%
	5カ年平均	3,904	82	96	83	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	3,700	80	90	80	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長野、群馬の切り上がりが早く、上旬は入荷が少ない。愛知、茨城は定植遅れがあり、中旬から増加見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.3%) 価格：高値だった前年を大幅に下回る。(△21.6%)							
ほうれんそう	2019年	269	685	747	772	580	岐阜 51%
	2020年	386	443	591	488	323	愛知 26%
	2021年	365	487	586	462	425	茨城 16%
	2022年	388	476	622	478	369	静岡 2%
	2023年	347	439	480	391	455	群馬 2%
	5カ年平均	351	496	592	499	417	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	340	500	600	500	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 岐阜高冷地物は終盤。愛知、関東物の出荷が始まる。平地は9月の高温により生育不良傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.0%) 価格：前年をかなり上回る。(13.9%)							

東京都中央卸売市場

10月31日現在

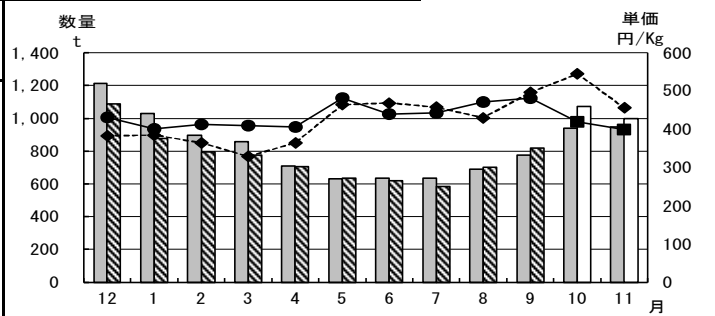
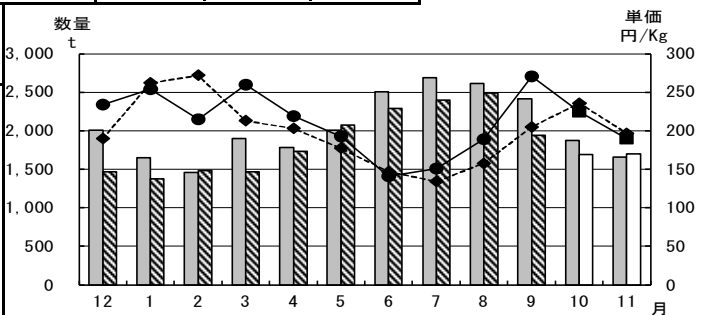
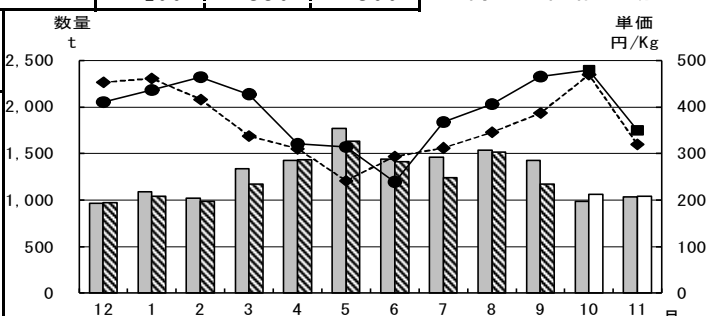
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2019年	15,639	67	62	68	71	茨城 86%
	2020年	15,413	34	40	33	29	長野 9%
	2021年	15,781	42	50	43	34	群馬 4%
	2022年	13,295	63	75	60	54	
	2023年	15,840	50	60	53	39	
	5ヵ年平均 2024年見通し	15,194 15,000	51 60	57 80	51 55	45 45	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
い	【産地状況】 茨城を中心に入荷する。上旬は長野が終盤となるが茨城は少ない。中旬以降は茨城が増加し、安定した出回りとなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.3%) 価格：前年を大幅に上回る。(20.0%)						
キヤベツ	2019年	15,307	79	73	89	77	千葉 48%
	2020年	15,067	62	70	62	52	愛知 23%
	2021年	15,458	68	80	67	56	茨城 19%
	2022年	14,227	81	91	82	70	神奈川 5%
	2023年	13,489	104	126	97	90	群馬 2%
	5ヵ年平均 2024年見通し	14,710 13,500	78 100	87 120	79 90	68 90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ツ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 千葉、愛知等を中心に入荷する。上旬は高温の影響で例年より出荷遅れが見られるが、中旬以降は安定した入荷となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.1%) 価格：前年をやや下回る。(△3.8%)						
ほうろ	2019年	1,072	723	773	776	640	群馬 46%
	2020年	1,699	411	499	465	299	茨城 28%
	2021年	1,826	391	469	350	366	栃木 9%
	2022年	1,751	420	524	416	336	埼玉 6%
	2023年	1,789	397	385	373	441	千葉 5%
	5ヵ年平均 2024年見通し	1,627 1,800	446 400	509 390	449 390	398 420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
れん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
そう	【産地状況】 群馬、茨城を中心に入荷する。群馬、茨城の入荷量は上中旬にピークとなるが、下旬には落ち着く見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.6%) 価格：前年並。(0.8%)						

名古屋市中央卸売市場

10月15日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	1,170	388	386	377	403	長野 29%
	2020年	1,078	368	408	372	322	北海道 23%
	2021年	1,329	310	316	303	311	富山 6%
	2022年	1,157	345	346	350	339	茨城 4%
	2023年	950	456	427	465	476	中国 4%
	5カ年平均	1,137	369	372	365	367	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,000	400	380	400	420		
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 北海道は終盤。各産地順調な出荷見込み。愛知の越津ねぎが出揃う見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(5.3%) 価格：高値だった前年をかなり下回る。(△12.3%)</p>						
し	2019年	1,626	267	275	276	250	茨城 44%
	2020年	2,022	129	134	149	110	兵庫 29%
	2021年	2,177	142	170	133	129	愛知 9%
	2022年	1,985	201	265	201	151	長野 5%
	2023年	1,661	197	196	170	229	群馬 4%
	5カ年平均	1,894	183	204	181	165	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,700	190	200	190	180		
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 暑さの影響で秋冬作の出荷は遅れている。茨城は上中旬から減少、兵庫は中旬から増加見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.3%) 価格：前年をやや下回る。(△3.6%)</p>						
き	2019年	1,114	362	475	348	296	愛知 35%
	2020年	1,281	306	371	309	249	群馬 21%
	2021年	1,190	294	320	274	289	宮崎 17%
	2022年	1,064	331	399	307	292	高知 10%
	2023年	1,036	320	324	303	331	長野 6%
	5カ年平均	1,137	322	372	308	289	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,040	350	400	350	300		
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 群馬、長野は早めに切り上がる見込み。冬春物は中旬以降まとまった出荷となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：平年並。(0.4%) 価格：前年をかなり上回る。(9.4%)</p>						

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	5,608	371	360	357	394	茨城 14%
	2020年	5,554	339	364	353	298	秋田 14%
	2021年	5,762	265	270	263	262	栃木 11%
	2022年	5,503	309	324	307	297	青森 10%
	2023年	4,832	475	440	505	482	北海道 7%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4,800	348	410	420	390	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 茨城、秋田等を中心に入荷する。旬別の入荷産地は、上旬は秋田と青森、中旬以降は茨城と栃木が中心となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.7%) 価格：前年をかなり下回る。(△13.7%)</p>					
しめじ	2019年	7,075	253	255	262	242	茨城 66%
	2020年	7,119	120	128	137	97	静岡 10%
	2021年	7,013	139	160	130	127	香川 6%
	2022年	6,546	194	253	191	137	兵庫 4%
	2023年	6,645	177	181	150	204	福岡 3%
	5ヵ年平均 2024年見通し	6,600	176	195	174	161	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 茨城を中心に入荷する。前月同様、各産地で高温の影響がみられる。中旬以降は西南暖地も増え潤沢な入荷となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.7%) 価格：前年並。(1.7%)</p>					
きゅうり	2019年	4,884	388	456	386	330	宮崎 28%
	2020年	5,076	316	367	319	265	群馬 21%
	2021年	5,191	297	314	282	295	埼玉 20%
	2022年	4,622	335	375	313	306	千葉 9%
	2023年	4,702	333	318	326	355	高知 7%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4,700	333	400	325	309	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 宮崎、群馬等を中心に入荷する。上旬は東北産が概ね終了し、中旬以降は西南暖地からの安定した入荷が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0%) 価格：前年をやや上回る。(5.1%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	460	425	387	450	442	熊本 55%
	2020年	492	416	421	430	398	愛知 36%
	2021年	444	382	361	397	393	山梨 5%
	2022年	513	375	379	371	377	高知 3%
	2023年	467	399	407	388	401	茨城 1%
	5カ年平均	475	399	391	408	403	
	2024年見通し	480	380	380	380	380	前年及び本年の入荷量・価格の動き
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 上旬まで夏秋物が入荷があり、中旬から熊本、愛知に切り替わり、順調に入荷する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.8%) 価格：前年をやや下回る。(△4.8%)</p>						
ト	2019年	769	486	429	537	487	岐阜 38%
	2020年	1,002	395	547	421	289	熊本 32%
	2021年	843	463	515	429	461	愛知 15%
	2022年	847	451	594	441	351	三重 11%
	2023年	830	407	438	356	451	大分 4%
	5カ年平均	858	438	503	432	391	
	2024年見通し	800	450	500	450	400	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 夏秋物の切り替え。抑制作は8月の高温や台風10号の影響により、入荷が少なく、中旬以降増加する見込み。熊本は面積減。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.6%) 価格：前年をかなり上回る。(10.6%)</p>						
ミニ	2019年	348	842	830	850	847	熊本 65%
	2020年	446	714	949	789	521	愛知 29%
	2021年	486	711	683	749	696	宮崎 3%
	2022年	432	791	852	788	730	大分 1%
	2023年	448	753	903	667	665	岐阜 1%
	5カ年平均	432	757	840	764	680	
	2024年見通し	450	750	850	750	650	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ミニ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本の生産面積増の影響により、例年より出荷量が増える見込み。下旬にむけて数量が増加し、単価も落ち着く。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.4%) 価格：前年並。(△0.4%)</p>						

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2019年	2, 316	467	454	495	455	高知 56%
	2020年	2, 469	414	412	419	410	福岡 16%
	2021年	2, 493	403	402	392	418	栃木 8%
	2022年	2, 404	360	352	350	380	熊本 7%
	2023年	2, 416	374	342	369	425	群馬 6%
	5ヵ年平均 2024年見通し	2, 420 2, 400	403 400	392 400	404 400	417 400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 高知を中心に入荷する。各産地の生育は順調で、高温傾向のため草勢の山谷が小さく、安定した入荷が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.7%) 価格：前年をかなり上回る。(7.0%)</p>					
		数量(t)	単価(円/Kg)				
ト マ ト	2019年	4, 115	538	474	583	555	熊本 40%
	2020年	4, 995	462	608	498	344	愛知 15%
	2021年	4, 478	512	314	476	555	千葉 12%
	2022年	4, 245	518	671	492	412	栃木 11%
	2023年	3, 659	527	572	486	530	茨城 6%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4, 298 3, 500	509 520	527 550	506 490	473 520	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 熊本、愛知等を中心に入荷する。高温の影響で、熊本は低段の着果がばらつき小玉傾向、愛知は花飛びが見られる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.3%) 価格：前年並。(△1.3%)</p>					
		数量(t)	単価(円/Kg)				
ミ ニ ト マ ト	2019年	1, 769	794	788	788	805	熊本 40%
	2020年	1, 874	704	900	785	513	愛知 16%
	2021年	1, 874	658	612	686	671	千葉 13%
	2022年	1, 756	760	832	743	702	宮崎 8%
	2023年	1, 578	757	892	669	709	静岡 7%
	5ヵ年平均 2024年見通し	1, 770 1, 500	733 800	802 900	736 800	677 700	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 熊本、愛知等を中心に入荷する。熊本、愛知ともに高温の影響で低段の着果にばらつきが見られる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.9%) 価格：前年をやや上回る。(5.7%)</p>					
		数量(t)	単価(円/Kg)				

名古屋市中央卸売市場

10月15日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	509	366	383	392	393	鹿児島 38%
	2020年	478	430	522	437	361	茨城 23%
	2021年	447	344	378	365	335	宮崎 19%
	2022年	426	457	509	483	414	高知 18%
	2023年	417	465	619	458	388	長野 1%
	5カ年平均	455	410	481	424	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	420	483	600	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 上旬までは数量多くないが、中下旬に向けて、冬春物がピークとなるため、厳しい販売が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.7%) 価格：前年をやや上回る。(3.9%)							
白菜	2019年	2,783	83	82	84	83	北海道 93%
	2020年	2,327	137	134	141	137	長崎 7%
	2021年	2,037	203	195	199	213	
	2022年	2,247	115	110	111	118	
	2023年	2,039	131	132	131	130	
	5カ年平均	2,287	130	124	131	134	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,200	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道早出し産地終了し、貯蔵産地のみ の入荷。下旬から長崎の入荷が始まる。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(7.9%) 価格：前年を大幅に下回る。(△16.0%)							
たまねぎ	2019年	6,272	74	78	75	72	北海道 98%
	2020年	6,225	71	72	72	71	兵庫 1%
	2021年	6,800	143	124	141	168	中国 1%
	2022年	6,814	96	98	97	95	
	2023年	5,853	141	124	171	143	
	5カ年平均	6,393	105	102	108	107	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	6,000	110	100	110	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道主体の入荷で平年並の順調な入荷 となる。11月下旬から中生品種に切り替わり、 小玉比率が高まる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.5%) 価格：高値だった前年を大幅に下回る。 (△22.0%)							

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	2,048	413	411	411	茨城 57%	
	2020年	1,876	428	436	362	宮崎 22%	
	2021年	2,041	356	370	327	高知 10%	
	2022年	1,810	456	470	426	鹿児島 6%	
	2023年	2,339	422	538	374	岩手 3%	
	5ヵ年平均	2,023	414	459	411	374	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,300	420	430	420	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)	
【産地状況】 茨城を中心に入荷する。宮崎と鹿児島が上旬に増加し、中旬以降は安定した入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.7%) 価格：前年並。(△0.5%)							
ばれいしょ	2019年	7,536	89	91	88	北海道 98%	
	2020年	6,812	137	137	138	長崎 2%	
	2021年	5,951	195	183	196		
	2022年	6,448	110	109	111		
	2023年	6,191	123	129	121		
	5ヵ年平均	6,588	129	128	129	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	6,200	120	115	115	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)	
【産地状況】 北海道を中心に入荷する。出荷サイズはL中心ではあるが、小玉傾向となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.1%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.4%)							
たまねぎ	2019年	9,216	79	80	79	北海道 93%	
	2020年	9,122	75	75	74	中国 6%	
	2021年	8,152	169	155	172	兵庫 1%	
	2022年	8,921	103	100	104		
	2023年	6,979	189	178	193		
	5ヵ年平均	8,478	119	114	120	123	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7,700	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)	
【産地状況】 北海道を中心に入荷する。前年のような生育不良は見られず、L大・L中心の入荷となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(10.3%) 価格：前年を大幅に下回る。(△41.8%)							

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	9,651	320	311	333	330	静岡 19%
	2020年	9,898	324	329	328	327	フィリピン 17%
	2021年	10,046	359	363	362	362	和歌山 10%
	2022年	10,913	369	423	361	347	長野 9%
	2023年	9,093	384	386	378	394	熊本 9%
	5ヵ年平均	9,920	351	—	—	—	
実計	2024年見通し	9,100	360	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。いちごの入荷は愛知は上旬から、熊本は下旬からの予定。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.1%) 価格：前年をかなり下回る。(△6.3%)						
みかん	2019年	3,846	244	240	263	242	静岡 41%
	2020年	4,263	259	276	268	244	熊本 18%
	2021年	4,186	263	270	274	251	和歌山 17%
	2022年	3,762	264	292	278	237	愛知 12%
	2023年	4,071	289	311	300	276	三重 7%
	5ヵ年平均	4,026	264	278	277	250	
実計	2024年見通し	3,600	290	310	300	280	前年及び本年の入荷量・価格の動き
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 極早生同様に早生も日焼け果、カメムシの吸汁被害が多い予想。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△11.6%) 価格：前年並み。(0.3%)						
かき	2019年	1,752	282	600	429	706	岐阜 57%
	2020年	1,501	336	487	385	627	三重 17%
	2021年	1,586	354	546	514	520	和歌山 15%
	2022年	1,867	268	619	475	770	愛知 8%
	2023年	1,063	363	364	259	408	福島 1%
	5ヵ年平均	1,554	315	539	426	627	
実計	2024年見通し	1,450	340	330	350	350	前年及び本年の入荷量・価格の動き
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 日焼け果、カメムシの吸汁被害の影響により少ない。岐阜は着色次第でピークが11月下旬か12月上旬になる。 【概況見通し】 入荷量：前年を大幅に上回る。(36.4%) 価格：前年をかなり下回る。(△6.3%)			注：前年の4～7月、本年の5～7月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記			

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	43,802	333	318	335	341	愛媛 20%
	2020年	43,562	347	345	338	358	熊本 12%
	2021年	42,005	380	381	371	389	長崎 10%
	2022年	41,628	364	363	358	370	和歌山 9%
	2023年	39,171	415	429	398	420	青森 9%
	5カ年平均	42,034	367	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	38,000	420	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 みかん、りんご、かきを中心に入荷する。各品目で夏季高温の影響による生育遅れや生理落果が見られ、入荷量の減少が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△3.0%) 価格：前年並。(1.2%)</p>						
みかん	2019年	20,820	264	249	273	263	愛媛 37%
	2020年	21,623	285	293	289	276	熊本 21%
	2021年	21,985	285	289	287	276	長崎 21%
	2022年	19,455	298	303	305	287	和歌山 12%
	2023年	21,157	310	324	308	299	佐賀 7%
	5カ年平均	21,008	288	292	292	280	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	20,700	315	285	285	300		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 愛媛を中心に早生みかんが入荷する。各産地は猛暑の影響で着色に遅れが見られ、入荷量は前年を下回る見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.2%) 価格：前年並。(1.6%)</p>						
かき	2019年	6,967	266	258	270	273	奈良 18%
	2020年	6,503	324	322	328	322	和歌山 17%
	2021年	5,848	351	350	353	352	新潟 15%
	2022年	7,968	236	242	233	233	愛知 14%
	2023年	6,111	354	355	355	353	福岡 8%
	5カ年平均	6,679	301	301	303	301	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	5,950	355	340	310	350		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 富有が福岡等、平核無が和歌山等から入荷する。日焼け果、カメムシ害の影響により入荷量は前年を下回る見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.6%) 価格：前年並。(0.3%)</p>						

切花・鉢花の11月の見通し

切花（愛知県港花き地方卸売市場 11月1日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2019年	1,600	45	
		2020年	1,191	52	
		2021年	1,441	54	
		2022年	1,332	42	
		2023年	967	40	
	5カ年平均	1,306	47		
	2024年見通し	1,100	43		
概要	愛知中心の入荷。上旬に夏秋菊の出荷が落ち着き、中旬から秋系に切り替わってくるが、定植期からの暑さの影響により、秀品率の低下が見込まれる。下旬からは年末に向けて数量は少しずつ落ち着いてくる見込み。				
小 ぎ	実績	2019年	750	30	
		2020年	764	28	
		2021年	737	33	
		2022年	658	27	
		2023年	562	24	
	5カ年平均	694	29		
	2024年見通し	600	25		
概要	愛知、沖縄から入荷。夏場の暑さが長引いたことにより、生育は若干遅れ気味。中旬から出荷量は安定してくる見込み。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2019年	1,100	38	
		2020年	1,147	31	
		2021年	1,041	41	
		2022年	1,000	42	
		2023年	938	40	
	5カ年平均	1,045	38		
	2024年見通し	1,000	40		
概要	長野、愛知、輸入の入荷。愛知は前進傾向のため、例年に比べ少なめの予想。茎の軟弱さは寒が進むにつれて回復に向かう。				
か す み	実績	2019年	110	115	
		2020年	139	87	
		2021年	155	92	
		2022年	150	95	
		2023年	112	111	
	5カ年平均	133	99		
	2024年見通し	120	110		
概要	和歌山、高知、熊本から入荷となる。長野は上旬、福島は中旬に終了となる予想。西南暖地は台風の被害もなく、中旬にはまとまった入荷となる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2019年	270	175	
		2020年	244	179	
		2021年	221	203	
		2022年	196	218	
		2023年	187	206	
	5カ年平均	224	194		
2024年見通し	200	200			
概要	<p>オリエンタルユリは高知、宮崎、新潟、埼玉、愛知などから入荷。西南暖地は夏場の高温により、奇形等の障害が発生している。鉄砲、LAユリは高知、埼玉中心に前年並の入荷が見込まれる。</p>				
洋 ら ん	実績	2019年	500	70	
		2020年	350	97	
		2021年	322	119	
		2022年	278	118	
		2023年	288	124	
	5カ年平均	348	101		
2024年見通し	300	110			
概要	<p>オンシジウムは秋期のピークは終わり、減少に向かう。デンファレはアンナの入荷が増え、ソニアが減る見込みで全体的には平年並を見込む。シンピジウムは徐々に国産が増える。コチョウランは入荷増の見込みだが、極端な増加はない。カトレアは天候次第であるが、12月後半の出荷に重点をおいているので、11月前半は品薄予想。</p>				
ば ら	実績	2019年	800	80	
		2020年	701	78	
		2021年	677	95	
		2022年	707	87	
		2023年	719	93	
	5カ年平均	721	86		
2024年見通し	700	95			
概要	<p>愛知、岐阜、三重、輸入中心の入荷。夏の暑さにより丈の伸びが悪かったが、徐々に長さが取れるようになり、輪のボリュームも出てきている。暑さの影響もあって、前半は品薄予想の産地もある。</p>				
枝 も の	実績	2019年	1,450	50	
		2020年	1,259	57	
		2021年	1,432	62	
		2022年	1,230	60	
		2023年	1,157	62	
	5カ年平均	1,306	58		
2024年見通し	1,200	60			
概要	<p>引き合いの強いヒバ類は順調に入荷する予定。サンゴ水木、柳類、ユーカリも潤沢な入荷となる。実物は前半でほぼ終了する物が多く、梅もどき、輸入のサンキライなどが入荷してくる。アカシヤ類、銀香梅など葉の枝物も入荷する。全体に入荷は多めとなり、相場も安定する見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2019年	11,747	665	
		2020年	16,748	941	
		2021年	14,522	1,130	
		2022年	12,209	1,300	
		2023年	11,307	1,197	
	5ヵ年平均		13,307	1,043	
	2024年見通し		11,000	1,000	
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。前年同様、円安の影響で輸入原木の仕入れが出来ないのが要因か。ドラセナの生産は年々減少しており、入荷は減少しているが、近年の販売は厳しく、価格も前年より下がる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(68.9%)、2位鹿児島(11.0%)、3位三重(5.1%)であった。</p>				
シヤコバサ	実績	2019年	29,339	520	
		2020年	32,266	539	
		2021年	24,868	583	
		2022年	24,000	583	
		2023年	22,694	469	
	5ヵ年平均		26,633	539	
	2024年見通し		20,000	450	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。出荷は4～5号中心の入荷見込み。小鉢は、暑さの影響等により花飛びが例年より多いため、出荷量は減少する。暑さが続いているので出荷の際の開花具合は咲き過ぎていない状態での出荷が望ましい。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(69.7%)、2位埼玉(28.8%)、3位栃木(1.6%)であった。</p>				
シクラメン	実績	2019年	659,736	279	
		2020年	791,136	302	
		2021年	794,945	309	
		2022年	672,730	322	
		2023年	670,882	308	
	5ヵ年平均		717,886	304	
	2024年見通し		650,000	308	
概要	<p>入荷量はやや減少か。ガーデンシクラメンを含む各サイズが暑さの影響で出荷遅れが予想される。4号以上の出荷は11月からとなり、上旬の入荷は少なく相場は安定するが、中旬以降の入荷は順調となり相場は不安定になる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(32.4%)、2位長野(17.7%)、3位群馬(9.0%)であった。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シン ビ ジ ウ ム	実績	2019年	34,010	2,045	
		2020年	40,986	2,268	
		2021年	50,173	1,814	
		2022年	50,000	1,920	
		2023年	37,876	2,101	
	5カ年平均		42,609	2,014	
	2024年見通し		35,000	2,100	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。夏の暑さで花の本数が少なく、開花も遅れている。開花の遅れにより、出荷作業が追い付かずアーチシンビジウムの割合は減り、直立のシンビジウムの割合が増える見込み。11月下旬から12月上旬のお歳暮時期にはある程度の開花が進み、出荷も揃ってくる見込み。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(61.5%)、2位三重(11.8%)、3位高知(9.1%)であった。</p>				
カ ラ コ エ	実績	2019年	20,547	208	
		2020年	19,132	265	
		2021年	21,561	250	
		2022年	15,014	249	
		2023年	14,615	256	
	5カ年平均		18,174	244	
	2024年見通し		14,000	257	
概要	<p>入荷量はやや減少か。暑さも収まり。生育は回復してきたが、開花スピードは遅れており、出荷は難しい状況が続く見込み。入荷は4～6号が中心となる。各市日の入荷次第だが需要も落ち着き、相場は不安定になることが予想される。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(46.9%)、2位岐阜(44.2%)、3位愛知(4.2%)であった。</p>				
パ ン ジ ー	実績	2019年	745,065	54	
		2020年	900,558	54	
		2021年	972,835	59	
		2022年	786,696	63	
		2023年	755,883	74	
	5カ年平均		832,207	61	
	2024年見通し		800,000	62	
概要	<p>入荷量は前年よりやや増加か。暑さ対策から仕込みを遅らせたものの出荷が10月末から11月中旬に集中すると見込まれる。11月下旬は生産数の減少や開花待ちなどから、需要に対して供給不足になる可能性がある。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(28.9%)、2位奈良(13.9%)、3位埼玉(11.7%)であった。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.617
2024年11月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434